

# SDGS REPORT 2022



新川電機SDGsレポート2022

当社は企業理念「新しい価値の創造を通じて社会に貢献する」のもとに、技術商社と振動センサメーカーが持つ技術力を活かし、地域のお客様、世界のお客様に、DX(デジタルトランスフォーメーション)時代に向けた、価値を提供していくことが社会貢献に繋がると考えています。

そこで、未来の地球と人々の暮らしを守るために、2015年に国連で採択された17項目の持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)の中で、特に以下の4つのGoalについて、当社の事業活動を通じて社会課題の解決と企業利益を両立させ、持続可能な社会づくりのための挑戦を行ってまいります。

- 「4. 質の高い教育をみんなに」、
- 「8. 働きがいも経済成長も」、
- 「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」、
- 「17. パートナーシップで目標を達成しよう」

社員一人ひとりが未来の地球と人々の暮らしを守るためにSDGsを理解し、新しい技術や考え方を取り入れ、地域のお客様、世界のお客様の課題を解決し、高い価値を創造することで、社会に存在意義を現し貢献できる企業を目指してまいります。

新川電機株式会社  
代表取締役社長  
新川 文登



新川電機グループは創業94年の歴史を持ち、品質方針「顧客の立場に立脚した思考と行動」をもとに、お客様が直面する課題に対し常にお客様目線で考え、技術力、モノづくり力、アフターサービス力を活かし、ソリューションビジネスを展開しています。

新型コロナウイルス感染症拡大によって、私たちの生活価値観は大きく変わり、「ニューノーマル」と言われる新しい生活様式へ移行しています。世界中でパラダイムシフトが起きて、これまでにないスピードで技術が進歩し、新しい変化の時代が来ています。この様な環境変化の中で、当社は次の3つの方針を重点テーマとして取り組んでまいります。

1. 技術力とモノづくり力そしてアフターサービス力を結集して、お客様に高い価値を提供し、未来を拓く企業として取り組み、社会に貢献してまいります。
2. 専門メーカーとして、振動をテーマに変位センサの開発・製造を行ない、お客様の設備である回転機器設備(タービン、コンプレッサ、ポンプ、工作機械など)の安全運転と予知・保全に最適化のソリューションで貢献してまいります。
3. 必要とする教育を行ない、お客様の現場環境の改善と設備の安全、生産効率向上に貢献できる人材育成を行い、人々が豊かに暮らす未来社会の姿を示したいと考えています。

2020年度から全社規模でSDGsプロジェクトを立ち上げ、社員一人ひとりがSDGsを理解し、社員が自ら考え提案した社会課題をテーマに掲げ、その解決に組織横断チームで取り組んでいます。新しい時代のソリューションビジネスを通して、社会貢献できる企業として、SDGsの目標達成に取り組んでまいります。

SDGsテーマと当社主要製品・サービス

	社会貢献	主要製品・サービス
<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>振動診断士養成セミナーで、計測・制御のプロフェッショナル「振動監視技術者」を育成します。</p>	<p>解析・診断システム</p> <p>無線式センシングシステム</p>
<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>現場の環境や安全性を向上し、働きがいのある職場を実現する提案を行います。</p>	<p>状況監視モニタ</p>
<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>DX技術で、生産現場の企画からメンテナンスまで生産基盤を構築します。</p>	<p>スマート保全</p> <p>遠隔監視</p> <p>計測機器</p> <p>生産制御システム</p> <p>プラントオートメーション</p> <p>ファクトリーオートメーション</p> <p>分析ソリューション</p> <p>ネットワークソリューション</p> <p>定期校正 / 装置検証</p> <p>計装工事</p> <p>ソフトウェア開発</p> <p>初級計装エンジニアリング研修</p>
<p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>	<p>社会を豊かにするための技術を国内外に広めていきます。</p>	

## 振動監視システムによる貢献



### ●現状課題

温室効果ガスが増え地球温暖化が進むと海面上昇や気候変動による自然災害、生態系への悪影響が増えると予想されています。そのため、地球温暖化の主要因である二酸化炭素の排出量削減が全世界共通の重要課題となっています。二酸化炭素排出の抑制を実現するためには、太陽光や水力など二酸化炭素を排出せず、自然界に常に存在する『再生可能エネルギー』をいかに有効に活用するかが重要です。

### ●目指す姿

当社センシング技術<sup>(※1)</sup>により再生可能エネルギーを活用した発電設備の状態監視と予知保全を行うことでエネルギーの安定供給・有効活用を実現し、脱二酸化炭素に貢献します。

(※1)センシング技術とは、装置や機器を使用して、温度や音、振動など様々な情報を計測・数値化する技術のこと。

### ●取り組み

再生可能エネルギーの一つである水力発電所および揚水発電所(以下、水力発電所と表記する)では、主機と呼ばれる主要な発電所構成機器(発電機や水車など)については振動監視が一般的に実施されていますが、補機と呼ばれる主要機器を除いた発電所構成機器(モーター、ポンプ、減速機など)の振動監視はほとんど実施されていません。そこで、補機の振動監視に有効とされるワイヤレスセンシングシステム(無線計測システム)を始めとした当社センシング技術を活用した製品を提供し、水力発電所の発電設備全体の状態監視を実現することで、水力発電所の安定操業および保全コストの低減に貢献します。

### ●事例紹介

水力発電所の発電設備の状態監視には、下記の製品が導入されています。

- ・主機(発電機や水車など)の振動監視製品:  
FK/CV/CA/VM-5/VM-7B
- ・補機(モーター、ポンプ、減速機など)の振動監視製品:  
CV/CA/VM-5/VM-7B/e-SWiNS/infiSYS

### ●今後の展開

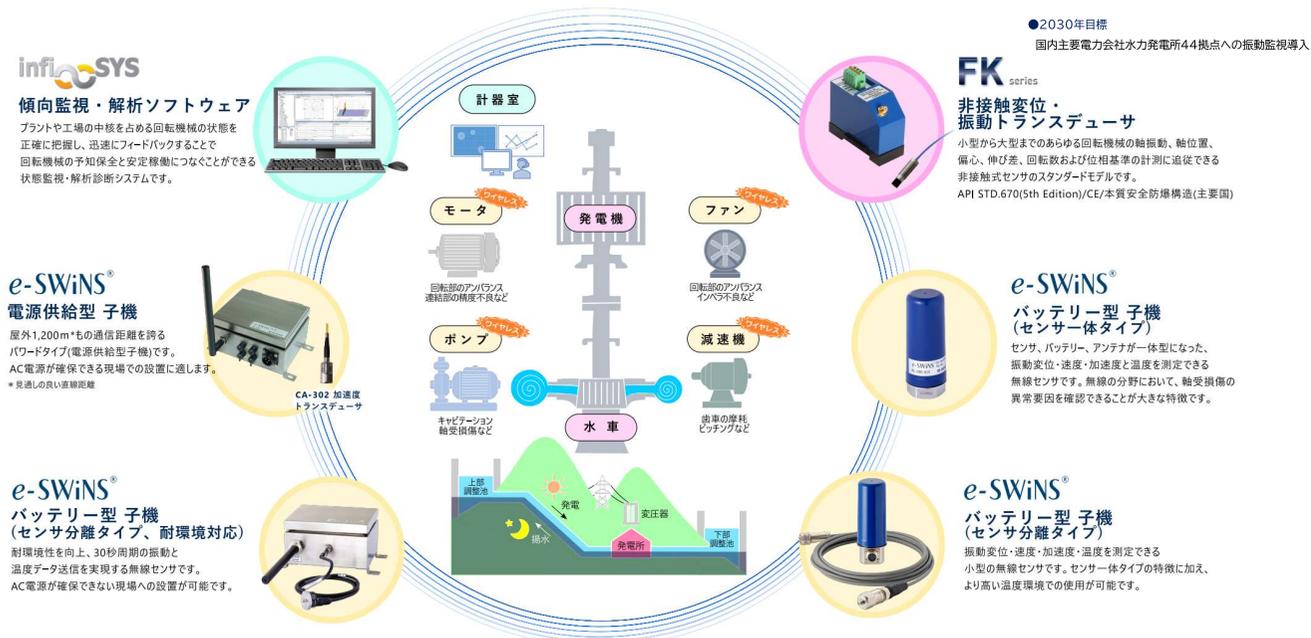
国内主要電力会社の水力発電所44拠点への振動監視の導入を推進し、さらに風力など、水力以外の再生可能エネルギーの発電設備にも振動監視を展開し、再生可能エネルギーの安定供給・有効活用による脱二酸化炭素社会に貢献していきます。

### ●2030年目標

国内主要電力会社水力発電所44拠点への振動監視導入

## 水力／揚水発電所 振動監視システム

発電設備の状態監視と予知保全により、再生可能エネルギーの有効活用に貢献します。





## 振動解析診断システムによる貢献

『新開発 振動解析診断システム』を活用し、遠隔で社会インフラの状態監視や振動解析診断を行い、設備の安定・安全稼働による持続可能な電気や水道などを供給することに貢献します。

### ●現状課題

私たちの生活に欠かせない電気や水道などの設備やサービスのことを社会インフラ(infrastructureの略)といいます。この社会インフラが、老朽化や自然災害により、安定・安全が危ぶまれることが世界各国で発生しています。世界各国の社会インフラを安定・安全に稼働させ、世界中の人々に持続可能な電気や水を供給することが課題となっています。

### ●目指す姿

世界の社会インフラの制御・運用技術システム(OT (※1)システム)において、予知・予兆保全や自動自立運転を実現するためには、誰でも、簡単に社会インフラの異常原因を推定し、遠隔にて解析診断を実施できることが必要です。「いつでも・どこでも・誰でも・簡単に」、安定・安全で効率の良い設備稼働を実施するための技術革新に貢献するために必要なシステムの一つとして、『新開発 振動解析診断システム』を全世界に導入し、当社が遠隔にて解析診断サポートすることで、持続可能な社会インフラの安定稼働を目指します。

### ●取り組み

世界各国の社会インフラに関する機械メーカーやエンジニアリング企業、最終顧客の現状の情報を収集し、顧客と協働で実証試験や評価分析を実施しています。どのような機能が必要か?どのような契約方法が最適か?どのようなシステムと繋ぐことができるか?どのようか?などの顧客要求仕様にもとづき、振動解析診断システムを開発しています。

### ●今後の展開

国内の小規模から大規模の社会インフラを始め、アジアを中心とした世界各国の社会インフラへも本システムを展開し、持続可能な電気や水道などを供給することに貢献し続けます。

### ●2030年目標

- ・国内:47都道府県に『振動解析診断システム』を導入
- ・海外:アジアを中心とした20か国に上記システムを導入

(※1)OTとは、Operational Technologyの略で、社会インフラ制御システムを動かすための制御・運用技術のこと。

## 振動解析診断システム

小型汎用機械や大型高速回転機械等の状態監視を行い、早期異常特定とその問題解決に取り組みます。



振動解析診断システムへは、VPN(Virtual Private Network)経由でアクセスします。今後、システムはクラウドサービスとして提供予定です。



## 回収熱利用工業用空調機システムによる貢献

従来の空調機システムでは、ムダに捨てられていた排熱を回収し、加熱源として再利用することで、ヒーターやボイラーなどの加熱装置を削減し、省エネ対策を実施し、二酸化炭素排出量の低減に貢献します。

### ●現状課題

気候変動問題の一つである地球温暖化は、大気中の温室効果ガスの増加が最大の原因と言われています。その中で最も影響を与えているのが二酸化炭素です。EDMCエネルギー統計によると、2018年度の日本の二酸化炭素排出量は10.8億トンで世界第5位、世界全体の3.2%を占めています。日本の二酸化炭素排出量の低減は世界から注目を浴びています。2021年4月に開催された「気候変動サミット」では、日本は2030年には2013年度水準から46%削減すると宣言し、この目標を達成するために、企業各社は省エネ対策に取り組んでいます。

### ●目指す姿

省エネ対策として、製造施設のクリーンルームや評価試験室など、温度や湿度、清浄度といった環境の高安定化を要求される室内空間においてこれまで排出しそのまま捨ててきた熱または周囲にもともと存在している熱を可能な限り回収し、加熱源として活用し、ヒーターやボイラーといった加熱装置を削減することで二酸化炭素排出量を低減し、カーボンニュートラル<sup>(※1)</sup>、そして気候変動対策に貢献します。

(※1)カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを指す。

### ●取り組み

回収熱を最大限利用した画期的な省エネ工業用空調機システムの利用拡大のために、製造工場を持つ企業各社様に対し、既存システムとの差異の提示や理論上のエネルギー削減率の試算による導入支援を実施しています。また、複数の空調機製造メーカーと共創で、企業各社様の製造工場設備に合わせた最適な省エネ支援も実施しています。

### ●事例紹介「評価試験環境の高安定度化支援」

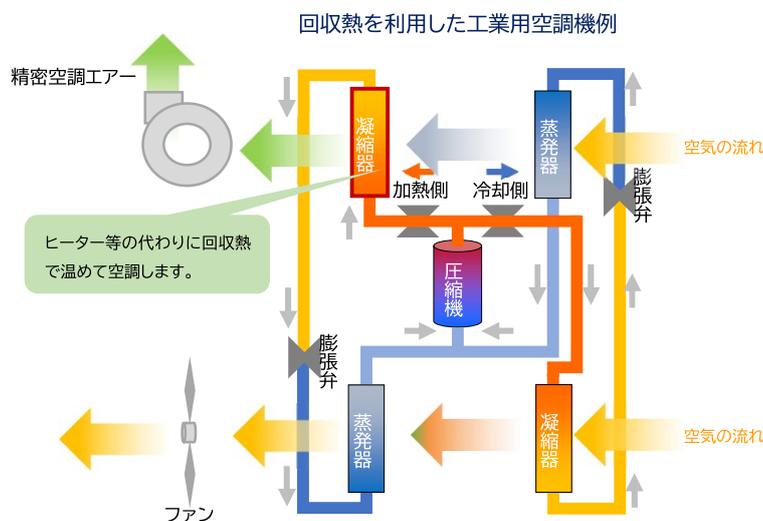
企業各社様では各種評価試験の再現性が強く求められています。そのため、年間を通じて試験室内の環境を安定化させることが必須です。当社では自動車メーカー様に対し、試験室内での温度や湿度といった環境の高い安定化のために回収熱を利用した空調機システムの導入を提案し、環境の安定化と二酸化炭素排出量の低減を実現しました。

### ●今後の展開

導入いただいた設備の定期的な保守サービスも当社で実施できることを目指し、当社サービス部門と空調機製造メーカーで、協業体制の構築に取り組んでいきます。

### ●2030年目標

導入実績案件 CO<sub>2</sub>削減量:年間3000t



出典:オリオン機械株式会社ホームページ「精密空調機の省エネ」

## 小・中学生対象ワークショップによる未来の技術者育成

子供たちがものづくりや技術をより身近に感じられるワークショップ（体験型講習会）を開催し、子供たちに技術者という職業に興味を持ってもらうことで、未来の技術者育成に貢献します。

### ●現状課題

世界は、生産設備の能力を飛躍的に高め、持続可能な産業化を推進してきました。しかしながら、少子高齢化が加速する中、技術者の不足によって、技術伝承や高度な生産性の維持が困難になる可能性があります。パーソル総合研究所と中央大学との共同推計『労働市場の未来推計2030』では、製造業の技術者は2030年には38万人不足すると報告されています。

### ●目指す姿

技術者を永続的に確保するとともに、今ある高度な技術を次世代へ引き継ぎ、産業の更なる発展の為、有能な人材を育成することを目指します。

### ●取り組み

子供たちが様々な技術分野に興味を持ち、より身近に感じられるようなワークショップ（体験型講習会）を開催し、自社製品や関連する技術にふれて、学べる場を提供します。

### ●今後の展開

小学生、中学生を対象に各種試験機や製造現場を模したモデルプラントなどを提供し、未来の技術者の育成に貢献します。また、技術体験を通じて新しい発見や喜びを与え、子ども自身のひらめきや知的好奇心を刺激して、可能性を開花させます。

### ●2030年目標

ワークショップへの参加者数 200人(累計)

### 事例紹介1

### モノづくり体験 ～オリジナルのCDコマを作ってみよう！～

本ワークショップは、当社の得意分野である振動技術（振動に関する計測、解析、制御、試験等の技術）から回転体を用いた技術に対して、子供たちに興味を持ってもらうことを目的として開催しました。当社工場での開催に加え、自宅から参加可能なオンライン開催を実施し、2021年夏の開催では11組16名に参加していただきました。

### ●危険予知訓練

モノづくり体験の前に、安全に作業を進めるための危険予知訓練を実施しました。学校や公園などにおける子供たちの日頃の行動を描いたイラストを使用し、その行動が危険につながると思う箇所に○を付けてもらいます。そしてなぜそこに○を付けたのか、なぜそのように考えたのかを参加者全員で共有することで危険予知を学びました。

### ●CDコマの製作

身近にあるCD（コンパクトディスク）を使用してコマを製作し、よく回るコマはどんなものかを子供たちに考えてもらいました。コマの軸は重さと先端の形が異なるものを用意して、それぞれの回転時間を計測し、どの軸が一番長時間回るのが、また、CDに重りを配置することにより回転時間がどのように変化するかを確認しました。よく回る軸と重りの組み合わせを確認した後、子供たちそれぞれがよく回ると考えた組み合わせのCDコマを作り、シールを貼ったり、マジックで絵を書いて自分だけのオリジナルCDコマでコマ回し競争を行いました。

### ●参加者の感想

- ・危険に対する考え方に触れることができた。
- ・形・重さの組合せで結果が変わるという事が体験できた。
- ・楽しみながら技術にふれることができた。





●SDGsプロジェクト『わくわくワークショップ』チームメンバーのご紹介



新川センサテクノロジー  
山野 郁生

体験後も技術に対する興味の余韻が残るような、そんなワークショップを目指しています。ワークショップに参加した子供たちが色々な技術に興味を持ち、日本にとどまらず世界の産業を背負って立つ技術者となってくれば、大変うれしく思います。



泉北営業所  
森田 沙也佳

技術を学ぶ機会を作って子供達に体験してもらいたい。そんな思いから私達の活動はスタートしました。「質の高い教育をみんなに」を実現するにはどうすれば良いか随分悩みましたが、子供達が楽しそうに「技術」に触れる姿を見ていると、社会貢献とは決して難しいことではないのだと実感しました。



中部支店  
中村 英司

まずはこの活動に参加させて頂けたことに感謝したいと思います。我々は「質の高い教育」をテーマに活動していますがワークショップでの子供たちの表情がとてもイキイキしており、こちらもワクワクさせてもらえました。今後もSDGsの活動に関わっていければと思っています。



広島本社  
宗東 明彦

参加者の方(保護者の方)はもちろん運営側の私達も「わくわく」できるものを目指して活動しています。このワークショップをきっかけに、1人でも多くの方が、モノづくりや技術に興味をもってもらえたらこれ以上の喜びはありません。

事例紹介2

技術体験 ～本物の仕事道具で遊んでみよう！テスター編～

本ワークショップでは、実際に仕事で使うテスター(計測器)を使って身近なものを測定する技術体験を通して、子供たちに技術そのものに関心を持ってもらうことを目的として開催しました。自宅から参加可能なオンライン開催で、2021年冬の開催では6組11名に参加していただきました。

●テスターの操作

テスターの電圧測定機能を使って乾電池の電圧を測定しました。乾電池の電圧の違いによって豆電球がどの程度光るのかを学びました。



テスターの使い方説明

●備長炭電池の製作

備長炭と塩水、キッチンペーパー、アルミホイルなどを使って備長炭電池を作りました。製作した備長炭電池と市販の乾電池で豆電球の光り具合を比較し、テスターで測定して電圧の違いを確認しました。

自分が製作した備長炭電池の性能を予測し、テスターを使って検証することにより、子供たちにモノづくりや技術に興味をもってもらうことを目指しましたが、身近な材料で電池を作ることができることに、子供たちはもちろん保護者も驚きながら楽しんでいました。



●参加者の感想

- ・オンラインで参加できたことがとても良かった。
- ・SDGsについて家族で考える良い機会になった。
- ・本物のテスターを使って実験するところが良かった。



備長炭電池の製作



## 社会課題の解決に挑戦する人材の育成

人材育成を重要視し、すべての社員に対して、継続的に業務に必要な知識や技術を学ぶ機会や能力開発の機会を提供しています。

### ●現状課題

人材育成は経営上、最重要課題となっている企業が多く、その要因として、業務多忙、上司などの育成の能力や指導意識の不足、人材育成が計画的・体系的に実施されていないことなどが挙げられます(※1)。

(※1)厚生労働省の公開資料「人材育成の現状と課題」

### ●目指す姿

すべての社員が必要とする教育をいつでも受けることができ、知識を行動に変えることにより自身の成長に繋げる機会を継続的に提供します。

### ●取り組み

教育に特化した組織『SECカレッジ』を開設し、職種別(営業・技術・事務など)、階層・年齢別に、キャリア形成に繋がる教育の機会を提供しています。

### ●事例紹介 『SECカレッジ教育体系』

SECカレッジでは、階層別、課題別、年齢別、職種別に研修を用意し、すべての社員は希望する講座を受講することができます。また通信教育289コースの受講も可能です。新入社員に対しては新人基本研修、その後、フォローアップ研修などの実施で、企業人としての成長を支援しています。

### ●今後の取組み

希望する教育を必要なタイミングですべての社員に提供し社員一人ひとりの能力開発を支援していきます。

### ●2030年目標

研修受講者満足度 100%

(2018年実績91%・受講者数192名)

	階層別	課題別	職種別		
			営業・事務	技術	
階層	経営	新任役員研修			
	管理	上級管理職研修			
		部門経営者実践プログラム			
		新任管理職研修		営業力強化プログラム	
	指導	リーダー研修	課題解決研修	中級営業職研修	工具・測定器の取扱い
	社員	中堅社員研修(応用)	選抜英語研修	事務職研修	電気理論基礎
		中堅社員研修(基礎)	トレーナー研修	初級営業職研修	工業計測基礎
		新人技術研修			ル-回路入門
		新人受入研修			初級SVE
					工業計測基礎
内定者	新人基本研修			初級計装エンジニア	
				計装入門	

SECカレッジ教育体系

研修

実習



## 社員による働きやすい職場づくり

社内のSDGsプロジェクトを活用し、社内課題や業務を遂行する中で気付いた社会課題の解決に取り組み、すべての社員にとって働きがいがある職場づくりを社員自ら取り組んでいます。

### ●現状課題

厚生労働省の『働きやすい・働きがいのある職場づくりに関する調査報告書』によると、上司とのコミュニケーション不足や業務スキルの習得が難しいことなどが職場の問題として挙げられています。テレワークの進展やワークライフバランスの向上によって、上司や同僚、部下とのコミュニケーションの希薄化によるメンタルの不調や業務スキル向上の不安が社員の問題となっています。職場での良好なコミュニケーションや業務スキルの指導が働きやすい職場づくりにとってますます重要になっています。

### ●目指す姿

すべての社員が業務に関わる不安や悩みを解消し、自発的に成長できる働きやすい職場づくりを目指します。

### ●取り組み

働きやすい職場づくりのために、上司と部下が1対1で対話(面談)をする1on1ミーティング制度や先輩社員による業務スキルを指導するトレーナー制度を導入しています。制度を運用していく中で挙がった課題を解決するために、SDGsプロジェクトメンバーが関係部署と連携して制度改善に取り組んでいます。

### ●事例紹介 『1on1ミーティング制度の改善』

風通しの良い、ボトムアップを大切にする職場づくりを目的として、1on1ミーティングを実施してきました。悩みを相談する場として制度への社員の期待が大きく、より自社に合った制度に改善するため、SDGsプロジェクトでは全社アンケート調査を実施し、社員の意見を制度に反映することに取り組んでいます。

	課題	取組み
1	上司の傾聴力にバラツキがある	上司向け社内講習の実施
2	制度の目的・方法が周知されていない	1on1制度説明会の開催
3	定期的な運用が困難	運用方法の見直し
4	相談に対するフィードバックが無い	フィードバックの仕組み導入

1on1ミーティング制度の課題と取組み

### ●事例紹介 『トレーナー制度の改善』

入社1~2年目の社員が安心して業務が遂行できるように、先輩社員が寄り添いながら成長を支援する相談窓口となるトレーナー制度を導入しています。しかし、本制度導入前に入社しトレーナーの支援を受けていない社員はトレーナーとして支援することの難しさを感じていました。そこでSDGsプロジェクトでは、入社3年目以降の社員を対象にトレーナーとしての指導方法を学ぶトレーナー研修の導入に取り組みました。現在は、社員全員が研修を受講し、若手社員との関係作りや育成技術を学び、同じ品質で若手社員を支援できるようトレーナー研修受講率100%を目指しています。

宇部フィールドエンジニア課  
釜本 大雅 (かまもと たいが)

#### トレーナー研修を受けて

最初にトレーナーになった際には新入社員とコミュニケーションをなかなかとることが出来ませんでした。

しかし、トレーナー研修を受けて、我々トレーナーが不安に思っていることは新入社員も同様に思っていることに気づき、彼らが不安に思っていることや困っていることを聞いて理解することに努めました。

少しずつコミュニケーションが取れるようになり、お互いが思っていることを共有し、理解し合うことができるようになったと思います。



九州エンジニアリング課  
福永 匠来 (ふくなが なるき)

#### トレーナー制度を経験して

入社後の新入社員研修を終えて、いざ実務に関わる際に「誰に相談したら良いか?」「こんな質問をして良いのだろうか?」という不安がありました。

そんな時、身近にいてくれるトレーナーからアドバイスをもらったり、忙しい時は日報を使って相談に乗ってもらい、とても助かりました。

#### 今後心掛けたいこと

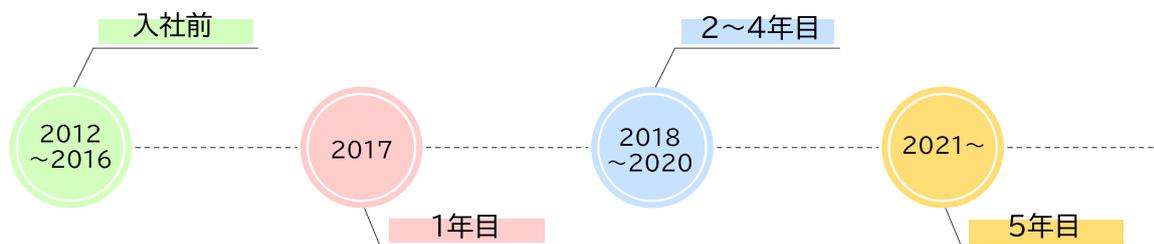
先輩方のように、迅速かつ確実に仕事を進めていくために、不明点を無くすよう学習して、自身で出来る事一つずつ増やしていきたいです。

## わたしのキャリアステップ 新川電機はすべての社員に自己成長できる学習機会を提供しています



新入社員は、社内教育機関『SECカレッジ』で基礎教育から職種別研修を受講し、各職場での実践を通じて業務知識を身に付ける育成手法OJT(On-the-Job Training)で、業務遂行に必要な知識・技術を身に付けていきます。

海外営業部 マレーシア駐在事務所  
2017年入社  
ムハマドシャフィクビンザカリヤ



### 入社前

私は2012年に初めて来日しました。日本の大学では電気電子情報工学部に在籍し、日本人の友達と多く会話をしたり、家電量販店で接客スタッフとして働くことで、日本語力の向上に努めてきました。漢字の読み・書きには苦労しましたが、無事、大学を卒業することができました。

### 1年目

新しい環境に身を置いて、他に外国人がいない職場で始めたOJTは不安でいっぱいでしたが、先輩に温かく迎えてもらい、仕事・生活において楽しく過ごすことができました。日本のおもてなしの心を感じた経験でした。



#### ステップアップへの気付き

不明な点があった場合、すぐに先輩に聞くのではなく、自分で解決方法を考え、その答えが合っているのかどうかを先輩にアドバイスを頂いた方が理解しやすいと感じました。

### 2~4年目

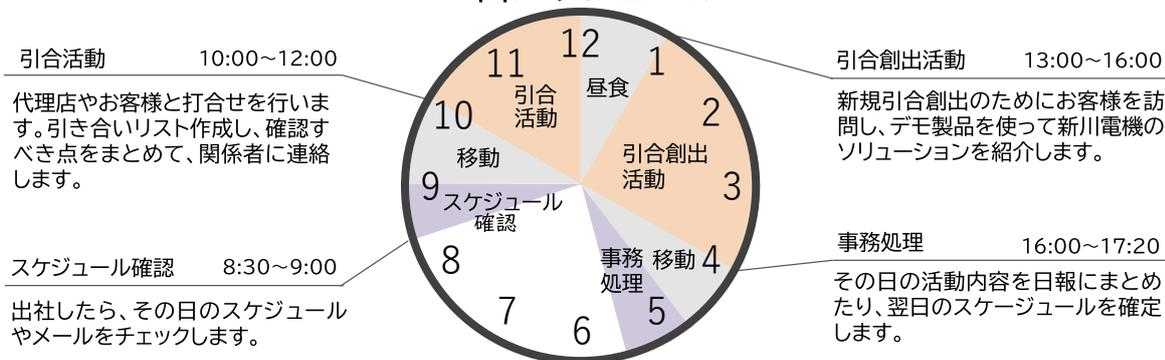
入社して最初にエンジニアリング部門へ配属されました。先輩に同行して現場を訪問したり、技術提案を実施する中で、お客様のニーズに合うような技術力を身に付け、提案力向上に繋げることができました。

その後、海外営業部門に配属され、営業としてお客様と直接話す機会・頻度が増え、お客様とのコミュニケーションが重要と感じると共に、お客様の課題解決のためには社内コミュニケーションも同じくらい大切なことを実感しました。「報・連・相(報告・連絡・相談)」というコミュニケーションを大切に、しっかり社内連携をして、お客様にとって本当に必要なものを提案することを心掛けてきました。

### 5年目~

今までの知識・経験を生かして、マレーシアに駐在事務所を新開設しました。新しいお客様を開拓し、事業の更なる発展を図ることが私のミッションです。これからの自分の成長と会社の発展を目指して頑張りたいと思います。

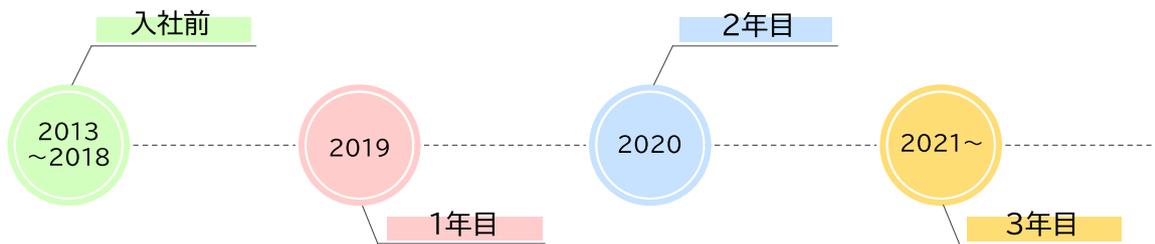
### 一日スケジュール





新入社員は、トレーナー制度によって先輩社員(トレーナー)の丁寧な指導や支援を受け、業務スキルの向上や能力開発をし、業務に自信が持てるようになっていきます。

関東支社 STサービス課  
2019年入社  
澤田 克人(さわだ かいと)



## 入社前

学生時代は機械工学科に所属しておりました。社名に”電機”と名がつき電気系の会社というイメージが強かったため、電気と無縁であった私は内心ドキドキでした。

**ここがいいね!**

トレーナー制度ではトレーナーとのコミュニケーションツールとして交換日記を活用しています。日々の率直な感想や疑問点などを自由に書き込みます。先輩に直接聞きづらいことも交換日記を通じて相談に乗ってもらいました。

## 1年目

OJTにて、営業職と技術職を経験しました。トレーナーである先輩からの熱心な指導もあって、仕事の全体像を掴むことができ、同時に仕事への関心も深まりました。先輩方の働く姿に感銘し、いつか自分も先輩のように成長していきたいと思いました。

## 2年目

技術部門に本配属が決まりました。自社製品の振動計などのメンテナンスを扱う職種につき、主に現場で使われている振動計の点検業務に従事しました。机上で製品の勉強をするより実際に自分の目で見て勉強した方が良いという先輩の思いから、現場に何度も同行させてもらいました。最初は現場の忙しい雰囲気に圧倒されていましたが、そんな中でも先輩は私の指導に時間を割いてくれました。先輩のおかげで徐々に実践力を身に付けていくことができました。

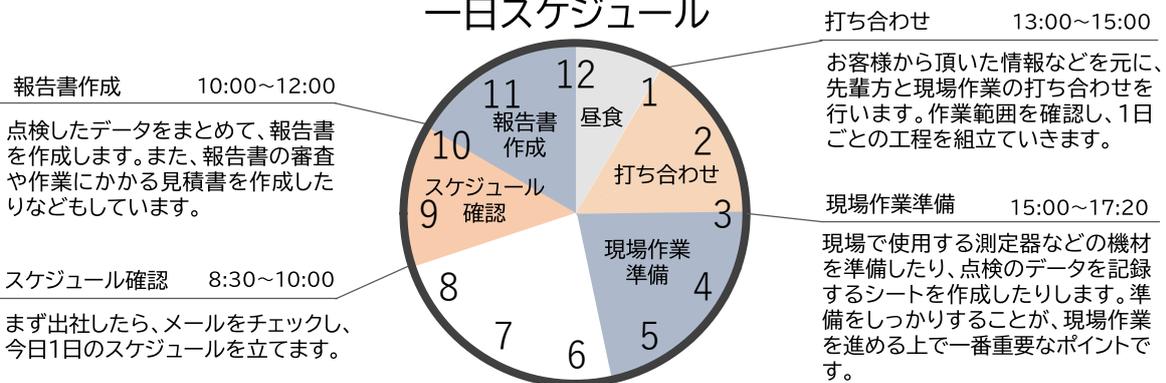
**ここがいいね!**

チャレンジ精神を尊重してくれます。こんなことに挑戦してみたい!と思えば、背中を押してくれる環境があります。良い結果が出れば、それが自信に繋がり、より強い自分に成長していけると思っています。

## 3年目~

点検業務の一部を任せられるようになりました。早く一人前になって、先輩方のようにお客様とコミュニケーションをとりながら、仕事を完遂できるようになるべく、日々精進しております!

## 一日スケジュール





## 社員の健康づくり

社会の高齢化や労働力人口の減少に対し、社員が健康に長く働き社会に貢献できるよう社員の健康保持・増進に取り組んでいます。

### ●現状課題

社会の高齢化が急速に高まり、医療・介護費などの社会保障費の拡大が日本の財政を圧迫しています。また労働人口の減少や労働人口における高齢者の割合の増加は、深刻な人手不足を招き、経済活動の停滞が懸念されます。

誰もが健康に長生きし、社会に貢献できるようにするためには、企業で働く期間をいかに健康で過ごすかが重要で、その後の健康寿命(※1)に大きく影響します。

(※1)健康寿命とは、ある健康状態で生活することが期待される平均期間を表す指標です。

### ●目指す姿

社員の健康保持・増進の取組みが、社員の健康寿命を延伸し、企業にとっても社員の活力向上や生産性の向上、また人材不足が深刻化する中での労働力の確保に繋がります。

新川電機グループの経営基本方針「企業の着実な発展と社員の幸福」の実現に向けて、社員が元気に長く社会に貢献できるよう、社員の健康保持・増進に取り組めます。

### ●取り組み

休暇取得の促進、育児・介護・治療と仕事の両立支援など、社員の健康保持・増進制度を導入し、働きやすい環境を整備するほか、社員によるSDGsプロジェクトで、社員の食生活の改善活動や禁煙を希望する社員への禁煙サポートに取り組んでいます。

### ●事例紹介『朝食フォトコンテスト』

社員によるSDGsプロジェクトで、健康に関する社員アンケート調査を実施し、社員の4人に1人が朝食を「食べない」または「ほぼ食べない」ことが判明しました。

朝食を抜くとやる気の低下に繋がり、業務の成果にも影響します。また、朝食の摂取頻度が低い人ほど肥満になりやすくなります。社員一人ひとりが、より健康的な生活を送ることができるよう、『朝食摂取率の向上』を目標とした食生活の改善活動に取り組みました。

その活動の一つとして、まずは社員が「朝食」に興味・関心を持つことを考え、社内報に朝食の重要性についての記事を掲載したり、朝食フォトコンテストを全社で開催しました。

朝食フォトコンテストでは、全社員を対象に朝食の写真を募集し、SDGsプロジェクトメンバーが審査員となり、「栄養バランス」「手軽さ」「いろいろ」「費用」「朝食に関するエピソード」の5項目について評価しました。上位作品には「最優秀賞」「イチオシ賞」「チャレンジ賞」、朝食に関するエピソードが広く共感を得る作品を対象とした「NICE☆SDGs賞」、入社1～3年の社員の作品を対象とした「新人賞」を授与し、記念品を贈呈しました。

本コンテストは全社員で楽しめる企画として好評を得ることができ、審査結果の発表時にはコンテストサイトへのアクセスが急上昇し、多くの社員に注目され、朝食に関心を持ってもらうことにつながりました。

### 2021年度朝食フォトコンテスト受賞作品



最優秀賞

イチオシ賞

NICE☆SDGs賞

チャレンジ賞

最優秀新人賞

## 全社SDGsプロジェクト

新川電機グループでは、「SDGs活動を通じて企業と社員の質の向上と社会貢献」を全社方針に掲げてSDGsプロジェクトを開始しました。社長をトップとし、立候補した社員による全社組織体制で社会課題の解決に取り組んでいます。

### ●新川電機が目指す姿

当社は、未来の地球と人々の暮らしを守るために、国連が掲げたSDGs(Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)の社会課題を全社員が理解し、技術商社と振動センサメーカーの強みを活かした事業活動を通して、地球環境や地域社会、経済基盤などの社会課題の解決に取り組めます。

そのために、社会課題の解決に貢献できる人材の育成や社会課題を解決する製品・サービスの開発を進め、お客様や地域社会とのコミュニケーションおよびパートナーシップを積極的に進め、製品・サービスの社会価値向上を目指します。

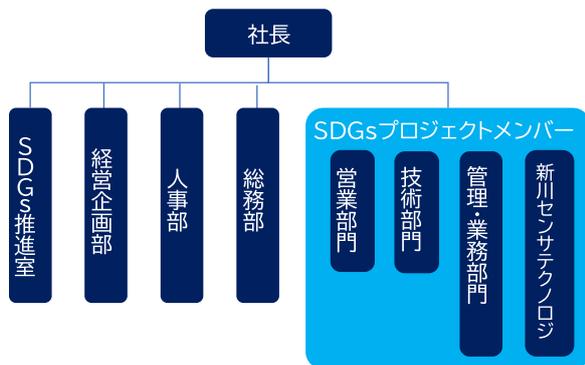
社会価値向上を意識して企業活動に取り組むことは、持続可能な企業の実現につながると考え、長期的な視点でSDGsの目標達成に全社員で貢献していきます。

### ●取り組み

2020年度に社長をリーダーとするSDGsプロジェクトを発足しました。全国の営業・技術・業務・管理に携わる社員が職制・職種を超えて集まり、SDGsについて学び、どのように社会に貢献するかを考え、新製品・サービス開発や地域貢献事業、社会貢献人材の育成など様々な新プロジェクト活動に取り組んでいます。

### ●プロジェクト体制

年度ごとにSDGsプロジェクトメンバーを新川電機グループ全社で募集します。集まったメンバーは、SDGs推進室や経営企画部、人事部、総務部の支援のもと、1年間、社会課題テーマを選定し、その解決に取り組めます。



### ●SDGs講演会開催

役員・部門長など経営者を対象にSDGsについての講演会を開催しています。SDGsへの理解を深め、お客様が取り組むSDGs活動に事業を通じていかに貢献するかを学ぶと共に、社内のSDGsプロジェクトメンバーの活動を理解することでメンバーへの支援を強化しています。

### ●SDGsワークショップ開催

SDGsプロジェクトの新任メンバーを対象に、SDGsワークショップを開催しています。SDGsについて学び、様々な社会課題に対し何ができるかアイデア発想を行います。ワークショップで上がったアイデアからメンバーが取り組みたいテーマを選定してチームを作り、1年間のプロジェクト活動に取り組めます。

### ●活動テーマ

これまでの活動テーマは下記の通りです。

活動テーマ	
1	振動解析診断システム開発による社会インフラ設備の予知・予兆保全と自動自立運転の実現
2	回収熱利用空調機システムによる二酸化炭素排出量低減
3	振動遠隔監視システムによる製造設備の運用監視拡大
4	振動診断士養成セミナーによる振動監視技術者育成
5	製造設備のIoT化による工場の生産性向上
6	開発途上国への技術者派遣による産業基盤構築
7	環境に配慮した製品づくりによる環境保全
8	振動監視システムによる再生可能エネルギーの有効活用
9	IoT化、DX技術導入支援サービス開発
10	小・中学生対象ワークショップによる未来の技術者育成
11	社内制度改革による働きやすい職場づくり
12	社員の健康づくり
13	採用制度改革による地域貢献

### ●SDGsレポート発行

プロジェクト活動の成果は、SDGsレポートにまとめ、公開しています。本レポートは、SDGsプロジェクトメンバーが作成しています。

# 新川電機株式会社

広島本社：〒730-0037 広島県広島市中区中町8番12号広島グリーンビル7F

東京本社：〒102-0083 東京都千代田区麴町4丁目3-3新麴町ビル3F

<https://www.shinkawa.co.jp>